

SHISEIDO DESIGN FORUM '96

職人復権・次世代モノづくり塾

～ポスト工業社会へ次の一手、熟練の技で新・価値創造を～

design

1995年12月11日(月)～1996年8月6日(火) 全10回 於・資生堂別館3F会議室

企画委員 ● 岩城陸奥/資生堂宣伝部
富沢木実/長銀総合研究所
森 清/羽生田鉄工
山口昌伴/GK道具学研究所
渡辺英夫/渡辺デザイン研究所

企画協力 ● 秋岡芳夫/工業デザイナー
榎本了亮/アタマテ・インターナショナル
関 満博/専修大学
森 和夫/職業能力開発大学校

企画制作 ● 資生堂イベントグループ

主催 ● SHISEIDO

特別アドバイザー ● 黒木靖夫/黒木靖夫事務所

企画・監修 ● 吉田 隆/NTS

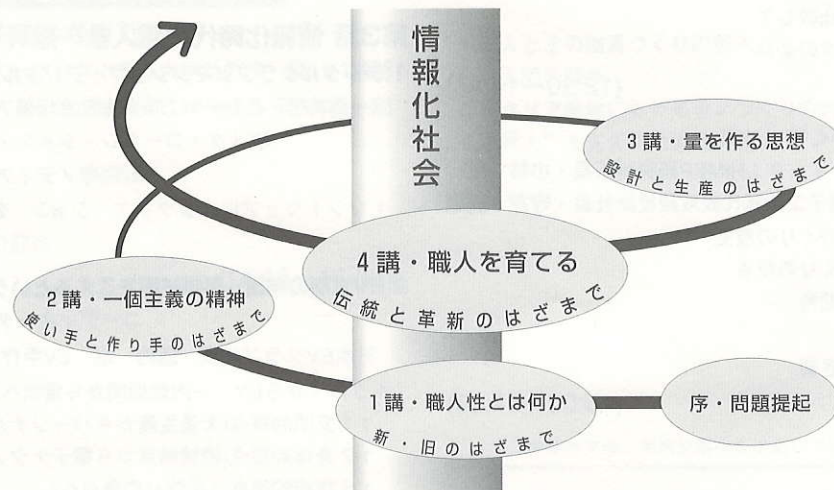
●開催のことは●

5年目を迎える資生堂デザインフォーラムでは今回“職人”をテーマにとりあげました。

いま、モノづくりの価値が見直されています。昔の職人の手づくりには、ほっと心安らぐものがありました。近未来のモノづくりにも、人間の知、精神性、非合理性といった要素が必要であるということを示唆しているのではないのでしょうか。

職人的商品開発・生産様式・人材育成を横軸に、情報社会を縦軸に置いて腰を据えて、新しいモノづくりの心と技を当代一流の講師陣と共に考えて参りたいと存じます。

関係各位の積極的な参加を期待致します。



●講義のすすめ方について●

講師は、商品化・製品化にあたっての様々な課題の克服を経て得た自らのモノづくり観を語ります。塾生はコーディネータとともに、講師の職人的モノづくりの発想の技法を学びます。そのことを通して、塾生各自が自らのモノづくり観を構築できるようにするものです。

●司会のことは●

本フォーラムでは『職人』を〈手技〉に優れるだけでなく、モノの本質を理解し、素材や加工の統合的知識と判断力を持つ人と考えます。

職人はアイデアの段階にあるものを具体的な製品にしたり、新しい美を生み出す力をもっています。

日本の製造業は、曲がり角に来ているようにみえますが、それは量産加工分野にすぎないとも言えます。

職人の力を活用し、斬新なアイデアを製品化したり、あるいは新しい美意識にもとづいた製品を生み出せば、次の展開に向けて一歩踏み出すことが可能でしょう。

人類にとって、自然との共生が課題でもありますが、環境と調和した空間、ヒトに優しい製品を創造する上でも、職人の復権が必要なのではないでしょうか。

(富沢 木実)

◆受講対象◆

- 製造業(経営・企画・生産・設計・開発・デザイン他)
- デザイン事務所(インテリア・プロダクト・グラフィック・CG・テキスタイル・クラフツ他)
- 建築設計事務所
- 大学・各種専門学校
- 地方公共団体

第1講 価値創造主・職人 ■ 工作者本能、新旧のはざままで

今、なぜ職人か・職人性とは・デジタル時代の職人性とは

1995年12月11日(月)

1996年1月24日(水)

開講にあたって ■ “職人”の今日的意味合

長銀総合研究所主任研究員・富沢 木実
(株)羽生田鉄工技術顧問・森 清

(10:00~10:30)

基調講演 ■ モノづくりの物語ーオリエンテーションとしてー

(株)資生堂取締役社長・福原 義春

(10:30~11:30)

第1話 復権する職人~今、なぜ職人か?

1. 想像力の職人~創造性・ハイテク・手仕事の融合

コーディネータ：現代構造研究所所長・三島 彰
テクスタイル職人・新井 淳一

- 1.誰がクリエイターか。産地・企業の技法集積とその活用・開発
- 2.日本のクリエイションの条件としての伝統技法とハイテクの融合
- 3.欧米と日本のクリエイションを比較して
- 4.ポストインダストリークリエイターの条件

(12:30~14:45)

2. 何を作るべきか~価値あるモノづくり

コーディネータ：HiMEP研究所所長・小林 昭
セイコー電子工業(株)代表取締役副社長・守友 貞雄

- 1.ホモ・ファーベルとしてのモノづくりの歴史
- 2.現代の工業社会におけるモノづくりの反省
- 3.モノづくりに携わる技術者への期待
- 4.モノづくりの哲学の確立
- 5.これからのモノづくりのあるべき姿

(15:00~17:00)

第2話 伝統的職人性~カン・コツ・経験・伝承技術

1. 伝統の中の技術~経験が育むモダン

コーディネータ：紫紅社・吉岡 幸雄 経師・鈴木 源吾

- 1.経師という職業の名称と仕事内容
- 2.日本の伝統文化を支え続けてきた職人達の過去・現在・未来
- 3.襖障子・和紙貼り・施工例

(10:00~12:30)

2. 伝統から近代へ~和菓子一代記

コーディネータ：脚本家・松田 彰一
レオン自動機(株)代表取締役社長・林 虎彦

- 1.手仕事から機械へ
- 2.手仕事と機械の共存
- 3.機械による手仕事へ(素材にしたがう機械)

(13:30~16:00)

1996年2月13日(火)

第3話 情報化時代の職人性~道具を変えても...

1. デジタルクラフツマンシップ~デジタル使いこなしの技

コーディネータ：(株)資生堂宣伝部アート・ディレクター・岩城 陸奥
(株)メタ・コーポレーション・ジャパン代表取締役・高沖 英二
財団国際メディア研究財団主任研究員・前田ジョン

- 1.ソフトウェアによるクリエイション
- 2.情報時代の伝承技術

(10:00~12:30)

2. EV文明の神話~熟練技術をこえるということ

コーディネータ：東京造形大学教授・柏木 博

日本EVクラブ代表・館内 端 EV手作り教室/東京大学学生・片山 竜二

- 1.クルマからEVへー内燃機関から電気への転換
 - 1-1 文明的視点(大量生産からパーソナルへ)
 - 1-2 身体的視点(機械感覚から電子テクノロジーの感覚へ)
 - 1-3 技術的視点(手作りの原点へ)
2. EVムーブメントの創造

(13:30~16:00)

プロフィール (講演順)



富沢 木実 68年日本長期信用銀行入社。産業調査を主に担当。90年より現職。著者に、『アパレル産業』『変貌する自動車産業』『現代日本の自動車部品工業』『系列を超えて』『新・職人の時代』等。



森 清 1933年生。都立江戸川高校定時課程卒業。57年から勤務した(株)羽生田鉄工を90年自主退職。現在、(株)羽生田鉄工技術顧問。専攻、中小企業論、技術・技能論。『町工場ーもうひとつの近代』『旋盤ひとつでアジアが見える』他、著書多数。



福原 義春 1931年生。53年慶応義塾大学経済学部卒業後、(株)資生堂に入社。技術部製品開発課長、シセイードコスメティックス・アメリカ社長を経て、75年商品開発部長、78年取締役外国部長、83年常務取締役、85年専務取締役、87年取締役副社長、同年7月取締役社長に就任、現在に至る。著書に『企業は文化のバトロンとなり得るか』『多元価値経営の時代』他。



三島 彰 1924年生。東京大学法学部卒業。毎日新聞エコノミスト編集部、西武百貨店ファッション関連部門部長、西友取締役を歴任。現在現代構造研究所所長。東京ファッションデザイナー協議会顧問。90年以降、GAP・JAPANにてテクスタイルクリエイション連載。



新井 淳一 1932年桐生市生。コンピュータ等のハイテクを駆使し、伝統技法を革新素材に自在に組み合わせる創造スタイルでアイデアを表現する。産地活性化のみならず、その創造力で繊維産業再編をも促す影響を持つポストインダストリー変革期を象徴する現代の職人。



小林 昭 1921年生。国立・民間研究所・大学教授などを経て現職。生産技術の研究に50年余り、最近10数年は、『生産原論』の確立に向け情熱を傾けている。著書に『新技術開発へのヒント』『モノづくりの哲学』など多数。工学博士、技術士。



守友 貞雄 1932年生。57年東京工業大学卒業。同年第二精工舎(現セイコー電子工業)入社。時計設備機械設計を担当。64年セイコー精機設立に伴ない転籍、工作機械(主として研削盤)設計。多角化商品(コンプレッサ、真空ポンプ等)の立上げ。87年セイコー精機(株)代表取締役社長。セイコー電子工業(株)専務取締役兼任。94年より現職。



吉岡 幸雄 1946年京都市生。生家は江戸より四代続いた京染屋。早稲田大学卒業後、73年紫紅社を設立。美術工芸図書の編集に携わる。87年より染司よしおかを継承。染織の制作と研究に従事。



鈴木 源吾 1935年千葉県生。51年表具師見習、人形町鈴木表具店入門、61年杉並にて独立。日本銀行本店の仕事で商売の軸とし伝統ある経師の仕事全般はもとより特に襖と和紙貼りに力を入れ現在に至る。



松田 章一 1936年石川県生。64年より金沢大学附属高校勤務、現在副校長。83年戯曲『島清世に敗れたり』で文化庁舞台芸術賞、金沢で鏡花劇場を主宰。作品は同劇団や円・文学座で上演。近作は林虎彦をモデルの『和菓子屋包匠』。



林 虎彦 1926年生。50年(株)虎彦設立。金沢にて和菓子屋を経営する傍ら、レオロジー(流動学)を食品加工に応用する研究を始め、自動包あん機の開発に成功。同機の実用化成功を機に、63年レオン自動機(株)を設立し現在に至る。84年(社)日本食品機械工業会会長。91年全国和菓子研究団体連合会名誉顧問。



岩城 陸奥 1944年生。千葉大学工業意匠学科卒業後、トヨタ自動車工業(株)デザイン部入社。その後(株)資生堂に入社し、パッケージデザインを担当するかたわらデザインシステムを開発。最近マルチメディア技術を利用したカウンセリングシステムの開発とインターネットのサーバー構築等の活動を行なう。

第2講 一個主義の精神 ■ 職人的商品開発、使い手と作り手のはざままで

こだわりの職人的商品開発、道具・工業製品・芸術品・社会経済環境の視点から

1996年3月5日(火)

基調講演 ■ 近未来の誂え文化

一 オーダー技術と作る技術、高齢化社会への急務一

工業デザイナー・秋岡 芳夫

(10:00~11:00)

第1話 誂え物の文化~モノづくりにおけるユーザー作法の変化

コーディネータ：工業デザイナー・秋岡 芳夫

池上左久作・池上 喬庸

1. 誂え刃物師としての必需品、注文帳
2. 使い手と作り手の信頼感一昔の注文の仕方と今の注文の仕方
3. いかにも良い刃物を作るかー使い手のニーズにどのように応えるか
4. 数々の口伝と伝承の世界一江戸鍛冶の注文帳
5. 江戸鍛冶と京都の伝統鍛冶の違い

(11:00~13:15)

第2話 車づくり~作品と商品のはざままで

コーディネータ：専修大学助教授・関 満博

SZオートモビル(株)代表取締役社長・櫻井眞一郎

1. 商品開発とは何か?
2. 個性派集団を育てる
3. 技術の伝承と企業文化の創造
4. 国内商品の未来は?ー新職人への期待

(14:15~16:30)

1996年3月19日(火)

第3話 初めての音づくり

コーディネータ：お茶の水女子大学教授・徳丸 吉彦

ヴァイオリンマイスター・杉山 和良

1. 楽器製作の伝統技術
2. ヴァイオリン400年の歴史の中の現在
3. ヴァイオリン製作における音づくり
4. 今、なぜ新作ヴァイオリンか!
5. 見えない部分の面白さ

(10:00~12:30)

第4話 職人的商品開発~日本とイタリアはどう違うか?

コーディネータ：黒木靖夫事務所・黒木 靖夫

ジャパン・プラス・イタリア・大島 悦子

工業デザイナー・喜多 俊之

建具師・横田 利宏

1. 職人とその道具づくりの職人
2. 職人間の競争
3. イタリア産地におけるモノづくりの特色、“職人”の役割
4. “職人”を支える社会経済環境

(13:30~16:00)

前期終了後、名刺交換会を予定しておりますのでぜひご参加下さい。



高沖 英二 1951年生。大阪大学人間科学部卒業。87年NHK人体プロジェクトを経て、88年会社設立。現在、医学・医療関係のCD-ROMタイトル向けにライセンス供給を開始。三次元解剖図のコンテンツを活かした情報統合ネットワークの開発や専用システム開発への展開を予定。



前田ジョン 1966年米国生。日本の伝統的な職人氣質の家に生まれ、幼年時代より完成度の高い職人芸とその美を見て育つ。MITにて計算機の並列処理と可視化の研究に従事。その後、筑波大学へ進む。現在、良いデザインに特有の簡潔さとコンピュータが生み出すはかな複雑性をいかに共存調和させるかを主題に研究を進める。



館内 瑞 1947年生。日本大学理工学部卒業。72年ベルコ・レーシング入社。2リッター・レーシングカーの設計を手がける。77年第2回日本F1GPに高橋国光のチーフ・エンジニアとして参加。92年ゼロ・エミッション・Fカーの製作を発起。94年電気自動車レース参加、同年「日本EVクラブ」設立。



柏木 博 1946年生。武蔵野美術大学卒業。東京造形大学教授。近代デザイン史専攻。デザイン評論家。著書『近代日本の産業デザイン思想』(晶文社)『デザインの20世紀』(NHK)『ユートピアの夢』(未來社)他。



片山 竜二 現在は東京大学教育学部理科I類2年で、工学部応用物理工学科に進学予定。環境に優しい資源利用や科学技術のあり方を考えているうちに、実際に行動するひとつの手段としてのEV作りに出会い、EV教室に参加する。



秋岡 芳夫 1920年生。41年東京高等工芸学校卒業。46~52年建築設計・家具設計・玩具設計等に従事。53年デザイン会社創設。69年以降、消費者と生産者の対話のある物づくりを提唱したモノ・モノ運動を始める。(財)クラフトセンタージャパン顧問。毎日産業デザイン賞他多数。



池上 喬庸 1924年東京生。江戸鍛冶の名人左久弘に師事した初代左久作より230種類以上の刃物制作を伝授された。特に江戸期の和鉄鍛造を特技として東京都優秀技能者に選定される。現在、既に滅亡した刃物の復元に意欲を燃やしている。



関 満博 1948年生。71年成城大学経済学部卒業。76年同大学院博士課程修了。東京都商工指導所、東京情報大学助教授を経て95年より専修大学助教授。専攻、産業論、中小企業論等。『伝統的工場産業の研究』『現代ハイテク地域産業論』『フルセット型産業構造を超えて』他。



櫻井眞一郎 1921年生。52年プリンス自動車工業(株)入社。合併後、日産自動車(株)にてスカイラインの初代から6代目迄の開発に携わる。86年オーテックジャパン(株)代表取締役社長就任。95年より現職。独自のクルマ作りの哲学に対し、『毎日デザイン賞』受賞(80年)。



徳丸 吉彦 東京生まれ。音楽学は東京大学文学科で、日本音楽と西洋音楽の実技は個人的に学んだ。現在はお茶の水女子大学音楽科教授で、民族音楽学を専門とする。日本語による最近の仕事は、『民族音楽学』(放送大学教育振興会、1990)。



杉山 和良 静岡市生まれ。東京農業大学造園学科卒業後、東京ヴァイオリン製作学校にて、無量塔蔵六に学ぶ。その後ドイツ、シュトゥットガルトにて、マイスターの資格を得る。現在大阪吹田市にて、ヴァイオリン工房を主宰。



黒木 靖夫 1932年生。57年千葉大学工業意匠学科卒業。60年ソニー(株)入社。78年意匠部長。88年クリエイティブ本部長。同年取締役就任。90年ソニー企業(株)代表取締役就任。93年4月(株)黒木靖夫事務所設立。著書に『ウォークマン流企画術』(筑摩書房)がある。



大島 悦子 東京外語大学イタリア語科卒業。日本オリベッティ、生活科学研究所を経て、90年ミラノのボッコニ大学客員研究員。91年ジャパン・プラス・イタリア社設立。ミラノと東京を拠点にイタリアの産業事情や物づくりの研究に取り組む。

第3講 量を作る思想 ■ 職人的生産様式、設計と生産のはざままで

理念や感性の量産品へのとり込み方・情報化社会での熟練技能の生かし方

1996年4月19日 (金)

**基調講演 ■ 生活者重視の社会とモノづくり
—客観的価値と社会・文化的な価値づくり—**

通商産業省生活産業局生活文化産業企画官・**関 成孝**

(10:00~11:00)

第1話 日本品質の創造~メード・イン・ジャパンを考える

1.現場からモデリスタを~感性品質の創造へむけて

コーディネータ：アパレル工業新聞主幹・**本田 徹**
デザイナーモデリスタ・**牧 勝則**
辻洋装店・**辻 庸介**

- 1.日本とイタリアのアパレル産業強さの違い
- 2.メード・イン・ジャパンの確立へー‘日本品質’の新しい価値基準とは
- 3.服作りを分断することで、優れた職人(モデリスタ)が育たない
- 4.日本的モデリスタの育成へ向けて—そのための教育と仕組みを考える
- 5.デザイナーとモデリスタの関係—日本とイタリアの場合

(11:00~13:15)

2.アジャイル・コンピティション※~新職人的組織の再構築

コーディネータ：渡辺デザイン研究所・**渡辺 英夫**
(株)クリエイティブ・ボックス代表取締役・**澁江 建男**
ソニー(株)取締役コンシューマーAV担当・**高篠 静雄**

- 1.環境変化と不確実性に対処できる組織のアジャイル性
- 2.競争力(知識・スキル・情報)を必要に応じて関係を結ぶネットワーク
- 3.平均値でなく個々の環境に対する情報で動く(カスタマーにとっての価値をみぬく)
- 4.独創を集団の目標にするには 5.心をこめたモノづくりとは

(14:15~16:15)

※アジャイルコンピティション：20世紀を支配したマスプロによる競争に代わるアジャイルな(agile=軽快な、(精神の)機敏な)競争原理。米国製造業の競争力回復の要望に応えるため昨年より研究開発が活発化。熟練工の知識もその重要な構成要素の一つ。

プロフィール (講演順)



喜多 俊之 1942年生。67年デザインオフィス設立。70年イタリア、ベルニーニ社等より作品発表。以後、イタリアを中心としたヨーロッパ及び日本を拠点に国際的に活躍。ニューヨーク近代美術館永久コレクション(81,84年)他、受賞作多数。



横田 利宏 1942年生。1960年弟子入り。建具師35年。



本多 徹 10数年に及ぶ繊維関係専門誌記者経験ののち、1985年2月、(株)アパレル工業新聞社を設立。同年4月から『アパレル工業新聞』を発行。アパレル産業の空洞化阻止へ「メード・イン・ジャパン」をキャンペーン中。



牧 勝則 1953年北海道生。72年上京、四谷のテラより始め76年石川群一のアトリエにてモデリスタとしての修行を積み、93年独立デザイナーモデリスタとしてスタート。オリジナルブランドイレブンマキ1953。現在、I.E.C(イタリアンエンジニアードクロージング)によるL.W.R.S(ライトウエイト・リラックススーツ)開発



辻 庸介 1942年生。63年文化服装学院師範科卒。65年辻洋装店入社、現在(株)辻洋装店代表取締役(株)ギルドエイベックス取締役、職業訓練校東京山手ファッション学院学院長

1996年5月17日 (金)

第2話 情報化社会を生きる職人

1.固有技術の復権とスキル

コーディネータ：中京大学教授・**小川 英次** 豊田工機(株)技監・**和田 龍児** 他

- 1.今、なぜ固有技術か? 2.CALS社会における固有技術の意義
- 3.固有技能者の育成と技能継承 4.メカトロニクス産業の未来とスキル

(10:00~12:00)

2.町工場の最前線

コーディネータ：専修大学助教授・**関 満博** (株)羽生田鉄工技術顧問・**森 清**

- 1.アジアの成長、日本の成熟 2.選別の進む町工場で職人は
- 3.高度情報化と町工場の職人技術

(13:00~15:00)

3.まとめ~どこにある情報化社会を生きる職人の働き場

コーディネータ：(株)羽生田鉄工技術顧問・**森 清**
中京大学教授・**小川英次** 専修大学助教授・**関 満博**

(15:10~16:30)

1996年6月12日 (水)

第3話 高度技能獲得への道

1.酒造り・バイオ職人

コーディネータ：職業能力開発大学校助教授・**森 和夫**
伊方杜氏・**梶谷 幸三郎** 関谷酒店・**関谷 健二**

- 1.酒とは何か 2.発酵を捉えるセンサー 3.飲む感覚と造る感覚
- 4.杜氏を生きる 5.流儀の違い 6.酒造りロボット論

(10:00~12:30)

2.ハイテク巨大機械システムの中の職人

コーディネータ：職業能力開発大学校助教授・**森 和夫**
(財)電力中央研究所ヒューマンファクター研究センター・**中村 肇**

- 1.ハイテク職場で生きる職人達、何が問題か 2.発電所における労働(運転と補修、直営と請負、他) 3.機械システムの高度化と作業者の能力 4.発電所における職人技-急には育たないハイテク職人 5.求められる職人像

(13:30~16:00)



渡辺 英夫 1934年生。ソニー(株)にてクリエイティブ本部マーケティングダイジニング本部長をつとめユーポレイトダイナミックス論、S.A.B Fromation論を实践。ソニーブランドの高揚に努めた。91年ソニー企業専務。94年独立・渡辺デザイン研究所を設立、デザインマネージメントコンサルタントを行っている。



澁江 建男 1968年日産自動車(株)入社、主に自動車のデザイン開発企画に従事。95年7月デザイン本部、部長を経て現職。他、東京デザインネットワーク設立に関わり現在顧問。趣味、書道(篆刻)



高篠 静雄 1943年生。62年ソニー(株)入社。90年ゼネラルオーディオ事業本部長。94年コンシューマーAVカンパニーシニア・バイス・プレジデント。95年4月理事に就任。同年6月取締役に就任。現在に至る。



小川 英次 1931年生。53年名古屋大学機械学卒業。55年同大経営学卒業。76年名古屋大学教授。88年同大経済構造研究センター長。94年退官、同大名誉教授、同年中京大学経営学部教授。日本中小企業学会会長他。独自の視点でスキル論を展開。「日本企業の生産システムのオリジナリティ」他、著者・論文多数



和田 龍児 1934年生。57年東北大学工学部卒業。同年豊田工機(株)入社。72年研究開発部長。77年取締役。83年常務取締役。87年専務取締役。95年より同社技監就任現在に至る。80年日本機械学会技術賞。90年紫綬褒章。95年国際ロボットFA技術センター10周年感謝状他



森 和夫 現在、職業能力開発大学校指導学助教授「技能がどのように習熟するか」について幅広い研究活動を行っている。人間工学のアプローチから生産技術論と生産技術教育の方法論を論じる。主な図書は『生産技能の習熟過程』、『ハイテク時代の技能労働』等がある。

第4講 新・職人の風土 ■ 人を育て、環境を育む、革新と伝統のはざまで

脱工業社会における職能開発・人材育成、環境創造・テクノロジーの未来

1996年7月12日 (金)

1996年8月6日 (火)

第1話 職人教育のプログラム

1. 伝統的な育て方、新しい育て方

コーディネータ：職業能力開発大学校助教授・小原 哲郎

いかるが工舎舎主、宮大工・小川 三夫

1. 育つを待つ育て方
2. 師と手本
3. 問題解決力を養う
4. 学ぶ意欲の持続
5. 育つ環境とは何か

(10:00~12:20)

2. 情報化時代の職人教育~今こそ求められている技能者の育成

コーディネータ：職業能力開発大学校助教授・森 和夫

キャノン(株)人事本部製造技術研修所所長・浅見 展昭

高等専門学校学生・ロボットコンテスト全国大会参加チーム

(95年11月開催)

1. 企業にとっての未来型職人
2. 技術者が技能者かのために
3. ロボットとの付き合い、そして出会い
4. 育つ感性と造る感性
5. 考える脳と実行する脳
6. 未来型職人と教育訓練
7. 技能水準の評価の仕方

(13:20~15:40)

(調査報告) 現代中国の瓦職人~2000年前の瓦博士

コーディネータ：GK道具学研究所所長・山口 昌伴

1. 中国の瓦屋根
2. 古式瓦の製法復元-薬師寺西塔
3. 2000年後の瓦博士に会う

(16:00~17:00)

第2話 環境創造へのビジョン

1. 伝統工法の近代化~世界的潮流の中で

コーディネータ：東京芸術大学教授・斎藤 英俊

安井空工務店副社長、数寄屋大工・安井 清

1. 自然素材の見直し(竹・土・紙・石灰・砂)
2. 素材加工の見直し(乾燥法の研究)
3. 工法の見直し(軸組み工法の再考)
4. 伝統工法見直しの世界的気運(竹・紙・他)

(10:00~12:20)

2. 現代建築と職人的なるもの(通訳付)

コーディネータ：KajimaDesign建築設計部長・押野見 邦英

YKK・カブルス事業部デザイン顧問・フィリップ.G.ボンソン

1. 現代建築に見る職人的なるもの
2. 機械美学の終焉
3. 職人と技術がもたらす新たな可能性
4. 21世紀の建築職人像

(13:20~15:40)

終講 テクノロジーの未来、職人的なるものへの期待

東京大学総長・吉川 弘之

(16:00~17:00)

後期終了後、名刺交換会を予定しておりますのでぜひご参加下さい。



関谷 健二 1945年生。80年東京・上野の老舗”関谷酒店”三代目を継承。以後3年間独学で醸造学を学び、83年オリジナルブランド「かなびの里」を開発。日本で唯一の日本酒プロデューサーとして独自のブランドを次々と生み出す。



梶谷幸三郎 1933年、愛媛県西宇和郡伊方町生まれ。50年に酒造りの世界に入る。愛媛県長浜町矢野醸造で蔵人として修業後、76年現在の酒六酒造(株)に杜氏として入社し、現在に至る。全国鑑評会金賞受賞、他入選数知れず。



中村 肇 1989年(株)三菱総合研究所入社。94年(財)電力中央研究所へ転出。専門は社会システム、人間工学。社会と技術のかかわりについて関心を持つ。現在、技能伝承及び発電所のヒューマンファクター等の研究に取り組んでいる。



小原 哲郎 現在、職業能力開発大学校指導学科助教授。現代技術のもとでの技能の意義と役割について、さまざまな角度から研究。主要論文に『向上訓練と技能の基礎』『制御としてみた技能』『道具と職人』等がある。



小川 三夫 1947年生。66年栃木県立氏家高等学校卒業後、68年西岡常一棟梁の内弟子となる。法輪寺三重塔、薬師寺金堂、同西塔の再建に副棟梁として活躍。77年鶴工舎を設立。以後、国土安穩寺等、全国各地の寺院の修理、改築、再建、新築の設計、施工、模型制作に当たり現在に至る。



浅見 展昭 1940年生。59年キャノン(株)入社。主にカメラの生産部門に勤務。93年より製造技術研修所にうつり、人作りに挑戦。



山口 昌伴 早稲田大学建築学科卒業後、10年間建築設計監理実務の後、生活研究の道に入る。生活学、住居学、道具学。『台所空間学』『和風探案』『和風の設計術』他多数。



斎藤 英俊 1946年生。96年東京工業大学理工学部建築学科卒業。77年同大博士課程修了。工学博士。一級建築士。文化庁主任文化財調査官を経て現職。95年度日本建築学会賞。桂離宮修理工事担当。日本イコモス国内委員会委員。著書に『桂離宮』(草思社刊)。



安井 清 1924年生。45年立命館専門学校理工科卒業後、(株)安井空工務店に入社、常務取締役を経て、86年より現職。国宝茶室「如庵」の移築工事、桂離宮の昭和大修理、国宝茶室「待庵」修復等々。古材バンクの会理事。竹文化振興協会常任理事(財)京都伝統建築技術協会理事等歴任。



押野見邦英 1941年生。横浜国立大学建築学科卒業。主な作品に大阪東区海上ビル(軽金属協会賞、BCS賞)、東京海上研修所(JCDデザイン大賞)など。横浜国立大学大学院非常勤講師。



フィリップ.G.ボンソン 米国セントルイス市在住。香港上海銀行、関西新空港ターミナルビル等世界の主要ビルの外装工事の設計を手がける。最近では自社工場を建設し施工にも意欲をもちやすまに現代建築の職人頭と呼ぶにふさわしい活躍。



吉川 弘之 1933年生。56年4月(株)三菱造船長崎造船所。同年10月(株)科学研究所(のちに理化学研究所となる)。66年東京大学工学部助教授。78年同教授。89年同工学部長。93年同総長現在に至る。『ロボットと人間』『テクノグローブ』他著書、論文多数。

職人復権・次世代モノづくり塾

受講要領

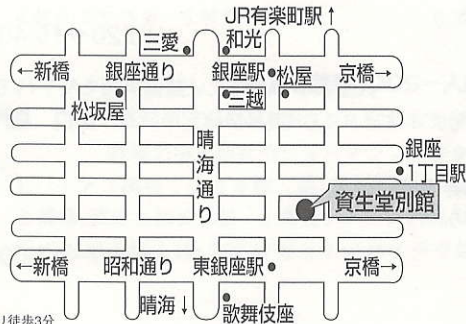
- ◆受講料◆ 全講通しのご受講の場合154,500円（テキスト、消費税分4,500円を含む）
前期だけのご受講の場合 82,400円（テキスト、消費税分2,400円を含む）
後期だけのご受講の場合 82,400円（テキスト、消費税分2,400円を含む）
- ◆定員◆ 150名（先着順に定員に達するまで受付けます。）
- ◆申込方法◆
 - 申込書に必要事項をご記入の上、FAX又は、郵送にてご送付下さい。
（FAX 03-3543-2035）
 - 折返し受講証と請求書をお送り致します。受講証は当日受付にご提出下さい。
 - 受講料は開催日10日前までにお支払い下さいますようお願い致します。
（当日会場払いはご遠慮下さい。）
 - 受講料の払い戻しはいたしませんので、申込者をご都合の悪い場合は、代理の方がご出席下さい。
 - 支払方法…〈振込先〉口座名 株式会社 資生堂
銀行振込／第一勧業銀行・銀座支店（普通預金口座）No.1870451
（銀行振込みの場合、原則として領収証は発行いたしません。）
（JHI/EIDOカードもご利用頂けます。）
 - 尚、振込み名は、参加申込書名でお願いいたします。

◆会場◆ 資生堂別館3F会議室
〒104 東京都中央区銀座3-9-7

◆お問い合わせ◆ 資生堂イベントグループ
TEL.03-3248-6780(担当/岡内・馬場)
株式会社 NTS
TEL.03-3814-3511(担当/吉田)

◆交通◆

- JR有楽町駅 中央口出口より徒歩7分
- 地下鉄銀座線・丸ノ内線・日比谷線 銀座駅 A12出口より徒歩3分
- 地下鉄有楽町線 銀座1丁目駅 10出口より徒歩5分
- 地下鉄都営浅草線 東銀座駅 銀座3丁目方面出口より徒歩2分



資生堂デザインフォーラム '96

参加申込書

■通信欄

会社・団体名 _____

事業所・部署名 _____

所在地〒 _____

TEL. _____ FAX. _____

受講者名	所属部課名・役職名	前後期通し	前期	後期

- 前・後期10日間通し 〈¥154,500円税込〉
- 前期 〈¥82,400円税込〉
- 後期 〈¥82,400円税込〉

※受講される欄に○印を付けてください。

FAX.03-3543-2035の申込みも受付けております。

申込先・資生堂イベントグループ 〒104 東京都中央区銀座3-9-7 TEL.03-3248-6780

〈職人復権の時代〉

- ・すぐれた職人は素材の選択と加工の仕方に秀でる。
一個へのこだわりから生まれるオリジナリティと使い勝手のよさが使う人の愛着を生む。
大量に作られたものが味気ないのは機械で作るからだけではない。
“大量に作る技術”がいつのまにかモノづくりの手段から、それ自体の目的に変わったためでもある。
この時、創業者が所有していたはずのモノづくりの“理念”も又、機械に封印されたのかもしれない。
- ・職人がものを作るプロセスを科学の目で検証し、現代工業への敷衍を試みるのが今日、求められているとも言える。
- ・単に“手技”にすぐれるだけではない。工程全体を把握しての高度な判断力、素材や加工の専門知識とその応用としての商品開発力、経験の蓄積が育む感性力、そして何より旺盛な事業家精神に秀でた人材が力を発揮出来る仕組みで現代工業を再構築することで、日本のモノづくりは甦りを見せるかも知れない。
- ・“量を作ること”“機械化すること”の思索を重ね、職人のモノづくりの主義・主張を企業理念として昇華することで、近未来のモノづくりの新たな地平が拓けてくるにちがいない。

〈資生堂デザインフォーラム '96 企画実行委員会〉

ヒトを彩るサイエンス
SHISEIDO

